

# GAP Japan 2024

## JGAP/ASIAGAPの到達点と今後

2024年11月27日












一般財団法人 日本GAP協会 代表理事専務

荻野 宏



# 1. JGAP/ASIAGAPの到達点

# JGAP/ASIAGAP

ASIAGAP	JGAP(農産)	JGAP(畜産)
 青果物	 青果物	 牛(牛肉)
 穀物	 穀物	 生乳(牛乳)
 茶	 茶	 卵(鶏卵)
		 鶏(鶏肉)
		 豚(豚肉)

日本GAP協会のGAP認証基準は、以下の7つの取り組みから成る。



<b>JGAP</b>	日本における標準的なGAP認証制度
<b>ASIAGAP</b>	JGAPに加えて、GFSIの要求事項を満たした「GFSI承認の国際規格」

# JGAP/ASIAGAPの現行の基準書

**JGAP** ◆ **JGAP 2022** 2022年11月公表、2023年1月(畜産)、2月(農産)より運用開始!

- 10年以上の運用実績を持ち、日本の標準的なGAPとして必要十分な内容。
- 青果物、穀物、茶に加えて家畜・畜産物にも対応し、乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、肉用鶏の生体と生乳、鶏卵を対象として、家畜衛生、アニマルウェルフェアへの配慮といった畜産特有の内容を含む。

**ASIAGAP** ◆ **ASIAGAP Ver.2.3** (改定第1版)

## <ASIAGAPのGFSI承認の概要(2018年の初回承認時)>

- 基準文書: ASIAGAP Ver.2(青果物、穀物、茶)、ASIAGAP総合規則2017
- 承認されたセクター: B I (植物の生産)、B II (穀類・豆類の生産)、D(植物性食品の前処理⇒Ver.2020.1ではBⅢ)
- GFSI評価の基準文書: GFSI Benchmarking Requirements Version7.1
- 承認日: 2018年10月31日  
(最新のGFSI評価の基準文書(Version2020.1)により、2022年1月にASIAGAP Ver.2.3が引き継ぎの承認を取得)

※ ASIAGAPはJGAPの内容にGFSIの要求内容(Benchmarking Requirements)を付加したもの

# これまでの主なトピック

---

2007 日本GAP協会が第三者認証の本格的GAPであるJGAPを運用開始

2010 農林水産省「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」が策定

2017 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における農畜産物の食材調達基準にGAPが採用

2018 ASIAGAPがGFSI(\*)の承認を取得

- \*GFSI( Global Food Safety Initiative )・・・世界の食品事業者から成る非営利団体。中心的な活動の一つとして、食品安全にかかわる認証プログラムについて、その適合性を判定・承認する仕組み(ベンチマーク)を提供し、適合性を監査。GFSI から承認された認証プログラムは、信頼に足る食品安全の認証制度として支持される。
- 
- 

2020 農林水産省「食料・農業・農村基本計画」においてGAPの推進が明記

2022 農林水産省「我が国における国際水準GAPの推進方策」および「国際水準GAPガイドライン」の策定

2023 大阪・関西万博における農産物、畜産物の調達コードにGAPが採用

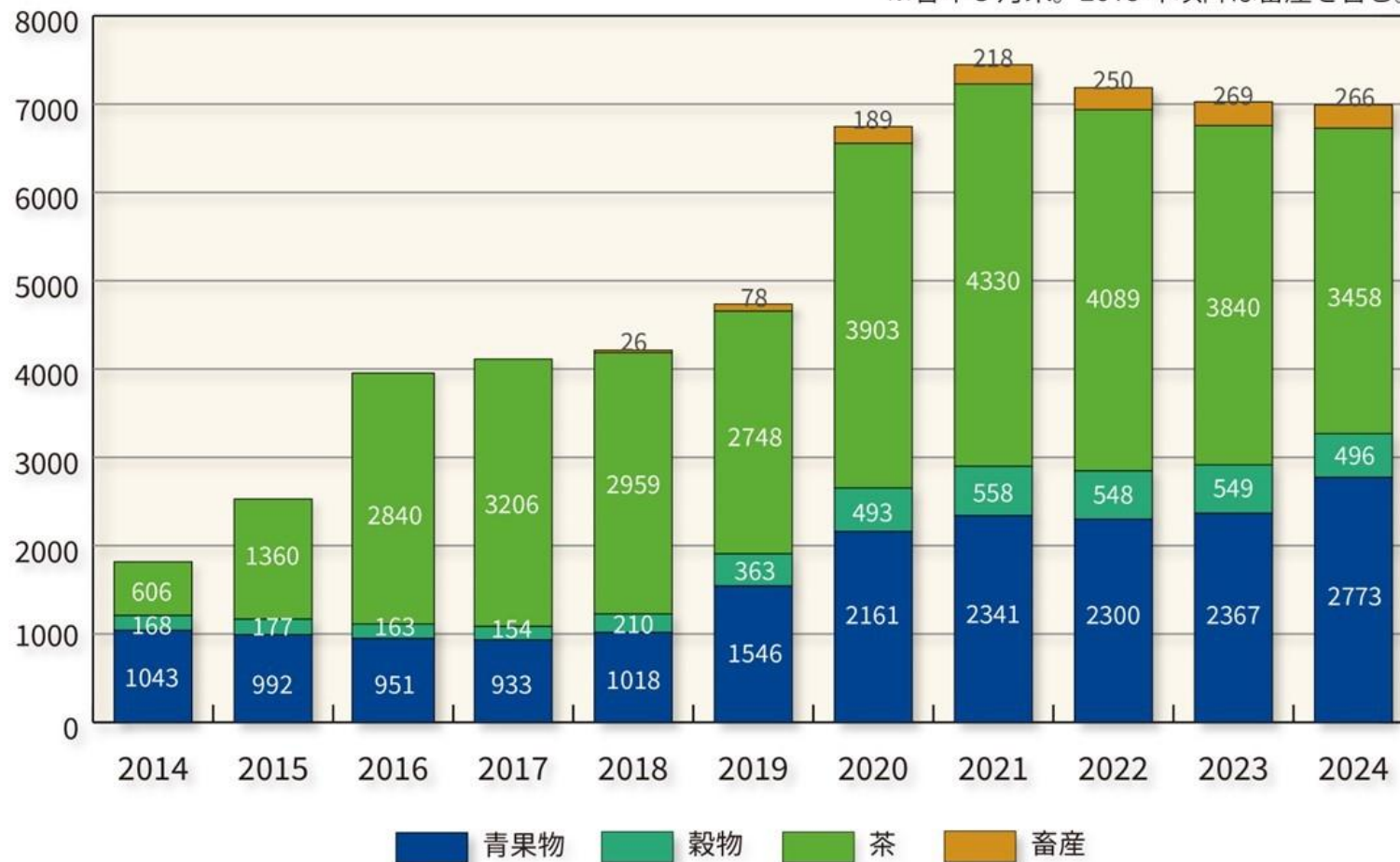
- 食料・農業・農村政策審議会答申では持続可能な農業という視点が明記
- 

2024 認証農場数は、食品事業者からの支持の拡大等により、青果物の認証が増加(2,367⇒2,773農場)

11月14日が「GAPとSDGs農業の日」として、日本記念日協会により記念日登録

# JGAP/ASIAGAP認証農場数

※各年3月末。2018年以降は畜産を含む。



6,993  
農場  
 (2024年3月末)

JGAP5,058農場、1,722認証  
ASIAGAP1,935農場、417認証

※各年3月末時点。農場数は個別認証と団体認証の所属農場数の合計

# JGAP/ASIAGAP認証の動向

---

2000

大手小売業等における食品安全への着目から日本でのGAPの普及が開始



2014

大手飲料メーカーが茶の調達基準にJGAP/ASIAGAPを順次採用



2018

大手小売業からのさらなる支持の拡大、卸売業、地域の小売業、外食産業等にも広がり



海外バイヤーからのASIAGAPを求める動きも表面化

近年、JA関係の団体認証の増加など、農場においても食品事業者からの支持に呼応して認証を取得する動きが青果物を中心に増加



# 食品事業者からの支持の拡大

## これまでのGAP普及大賞(アワード)受賞事例



2012 株式会社イトーヨーカ堂  
株式会社セブンファーム

「セブンファーム」と  
「顔が見える野菜。果物。」  
のGAP普及の取り組み



2013 JA東予園芸  
ゼスプリゴールド部会

産地形成における  
GAP利用のさきがけ



2015 日本コカ・コーラ株式会社

食品メーカーによる  
農業の持続性を高める  
GAPの取り組み



2016 株式会社ローソン  
ローソンファーム社長会

流通企業と全国の若手  
農業経営者のGAP普及に  
向けた取り組み



2022 株式会社  
セブン-イレブン・ジャパン

GAPによる地域振興への貢献



2023 コストコホールセール  
ジャパン株式会社

GAP を調達基準に位置付けて  
サステナビリティに配慮した  
調達を推進

# 食品事業者からの支持の拡大

農林水産省 GAPパートナー



出典:農林水産省 令和6年8月23日時点:71社

# 大阪・関西万博の調達コード

国際的なイベントではGAPが主流となっている。

## 持続可能性に配慮した調達コードの概要

### 農産物

- 持続可能性の観点から次の4点が求められる。  
①食材の安全、②環境との調和、③作業者の労働安全、④作業者の人権保護
- **JGAP、ASIAGAP、GLOBALG.A.P.認証を受けて生産された農産物は適合度が高いものとして原則認める。**
- 農林水産省作成の国際水準GAPガイドラインに準拠したGAPに基づき生産され、都道府県等公的機関による第三者の確認を受けたもの。

### 畜産物

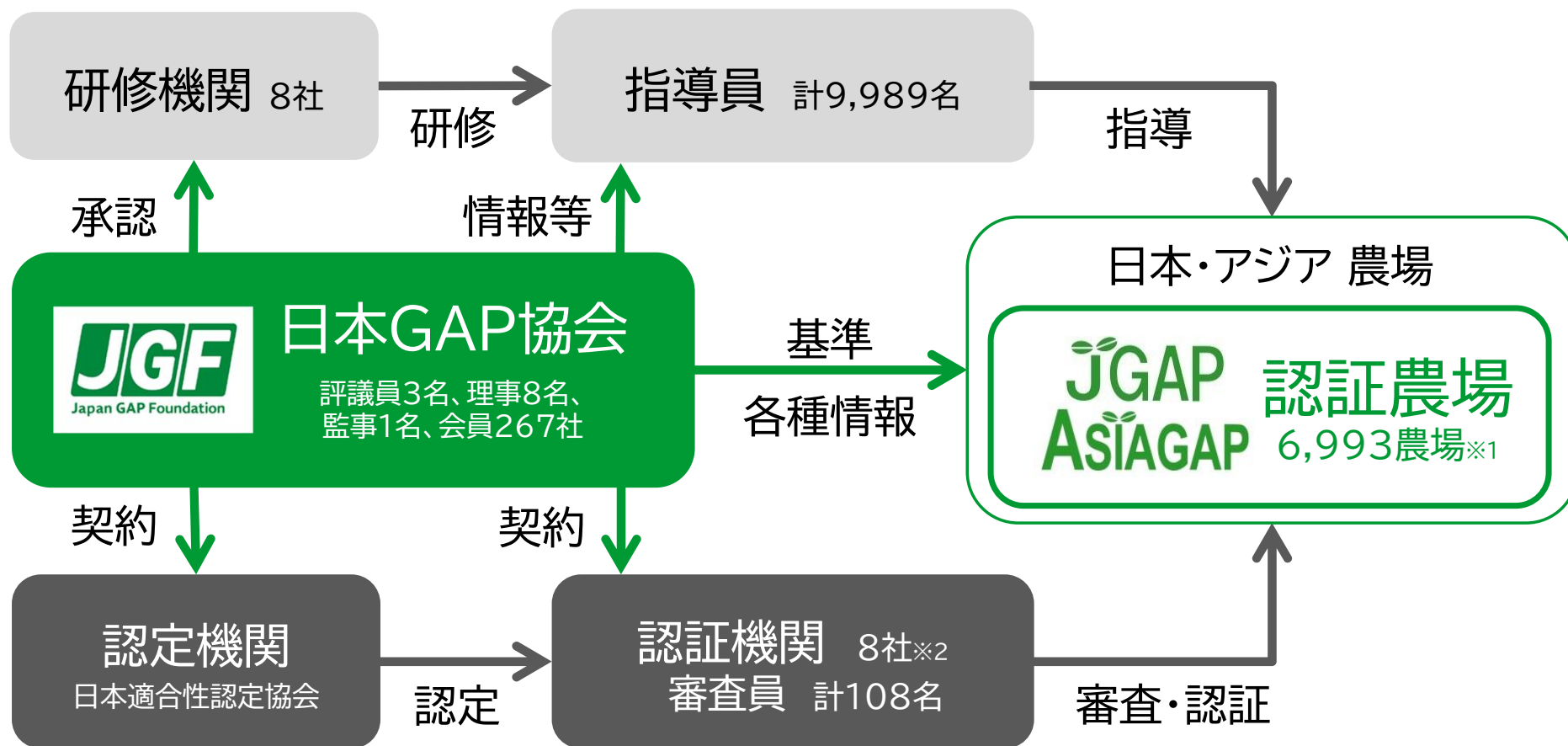
- 持続可能性の観点から次の5点が求められる。  
①～④(農産と同様)、⑤アニマルウェルフェア
- **JGAP認証を受けて生産された畜産物は適合度が高いものとして原則認める。**



OSAKA, KANSAI, JAPAN  
EXPO  
2025

※ 調達コードには、上記以外の農畜産物を必要とする場合の要件、配慮事項、海外農畜産物、調達困難な場合の対応等も詳細に記載。日本国際博覧会協会ウェブサイトをご覧ください。

# JGAP/ASIAGAPの認証・指導体制



※1:2024年3月末時点。青果物、穀物、茶、家畜・畜産物の合計、※2:畜産の認証機関は日本GAP協会による認定









# JGAP/ASIAGAPの研修

- JGAP/ASIAGAPを学び、能力開発ができる多様な研修メニューを提供
- 認証の取得を目指す農場、地方公共団体・JA等の指導者、営業等に活用する農業資材関係者のほか、GAPの知識に加え「農業」を学ぶことにも着目した食品事業者、土業等の農業支援者からの受講も多数オンライン研修が中心で受講の利便性もアップ。受講者は「JGAP指導員」となる。

JGAP指導員基礎研修	JGAPの基礎を体系的に学ぶ ⇒ 指導員研修のスタート
団体認証研修	事務局の運営や内部監査の考え方など団体認証を学ぶ
JGAP指導員現地研修	農場への指導方法を農場で学ぶ
ASIAGAP指導員基礎差分研修	ASIAGAPとJGAPの差分を学ぶ
特別研修	2022年から新たに「IPM研修」を開始
JGAP審査員研修	JGAP審査員となるための基礎を学ぶ
インターネット研修	知識の向上と指導員資格更新

※「ASIAGAP指導員基礎差分研修」を受講すれば「ASIAGAP指導員」となる。研修スケジュール、公認研修機関の研修情報等については、日本GAP協会ウェブサイトをご覧ください。

# ロゴマークについて

ASIAGAP認証プログラム ロゴマーク		ASIAGAP認証農場 ロゴマーク	ASIAGAP認証表記						
種類			この商品(あるいは製品、あるいは作物、あるいは品目名)はASIAGAP認証農場 登録番号A000000000で生産されました						
概要	ASIAGAP認証プログラムを表す	ASIAGAP認証を取得であることを表す	JGAP認証プログラム ロゴマーク		JGAP認証農場 ロゴマーク	JGAP農畜産物使用 ロゴマーク			
使用者	使用範囲により規定	ASIAGAP認証農場・団体	種類		 日本語版	 英語版	 農産物版	 畜産物版	 英語版
使用範囲	ASIAGAP認証を紹介する宣伝資材や出版物、認証書、研修合格証、その他、協会が認めた使用者の名刺	(1)ASIAGAP認証農場・団体の宣伝資材 (2)認証農産物に関する宣伝資材 (3)ASIAGAP認証農場・団体の消費者の目に触れない識別管理用の表示	概要	JGAP認証プログラムを表す	JGAP認証を取得した農場・団体であること、あるいはその農場・団体から出荷された認証生産物であることを表す	JGAP製品(JGAP認証農場・団体で生産された生産物を小分け・加工、または原材料として調理・製造したもの)であることを表すロゴマーク			
			使用者	使用範囲により規定	JGAP認証農場・団体	使用ロゴの使用に責任を持ち、協会から許諾を得た者			
			使用範囲	JGAP認証を紹介する宣伝資材や出版物、認証書、研修合格証、その他、協会が認めた使用者の名刺	(1)JGAP認証農場・団体に関する宣伝資材 (2)認証生産物に関する宣伝資材 (3)JGAP認証農産物とその包装・梱包資材	(1)JGAP製品の包装・梱包資材 (2)JGAP製品に関する宣伝資材 (3)JGAP製品に関連する企業の宣伝資材 (4)その他、協会が認めたもの			

※日本GAP協会ウェブサイトにおける説明画面の抜粋。ロゴマーク使用の細則、申請書などの詳細は、日本GAP協会ウェブサイトをご覧ください。

A pair of hands is shown holding a globe. The globe is composed of various agricultural images, including a cow in a field, a field of crops, a basket of tomatoes, a basket of mushrooms, and a field of rice. The background is a soft, light green gradient.

## 2. JGAP/ASIAGAPの今後

# GAPの必要性(病原微生物、異物混入への対応)

## 病原微生物と国内の食中毒事故の一例

腸管出血性大腸菌

2012年:はくさい浅漬け(患者数169、死者8)  
2014年:冷やしきゅうり(患者数510)  
2016年:キュウリの赤じそあえ(患者数84、死者10)  
2018年:サンチュ(患者数10)

サルモネラ属菌

2017年:きゅうり浅漬け(患者数19)

ノロウイルス

2013年:キムチ(患者数119)

## 異物混入苦情事例

虫

ハエ、ゴキブリ、虫卵・幼虫など(約7割)

鉱物性異物

ガラス、石・砂、金属(約1割)

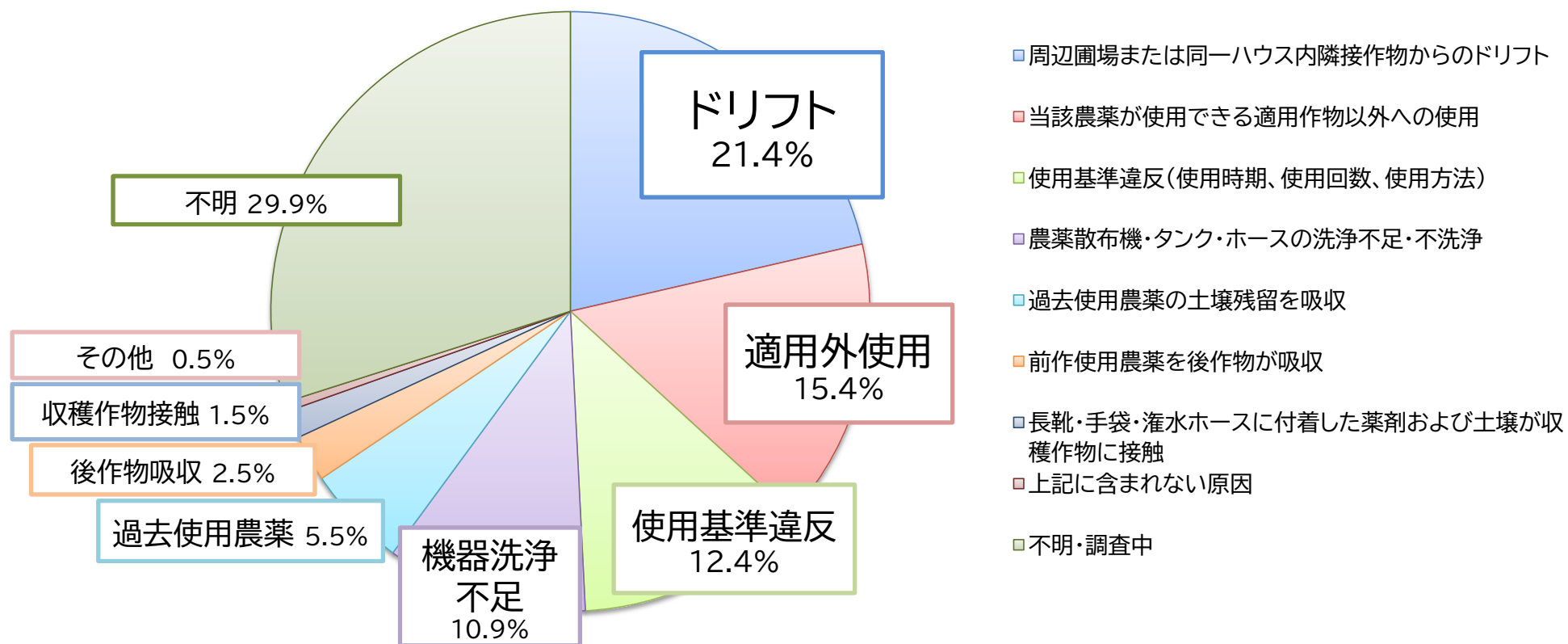
動物性異物

人毛、爪・歯など、ねずみのふん(約1割)

※ 食品安全アーカイブズ(東京都福祉保健局)より

# GAPの必要性(残留農薬基準違反への対応)

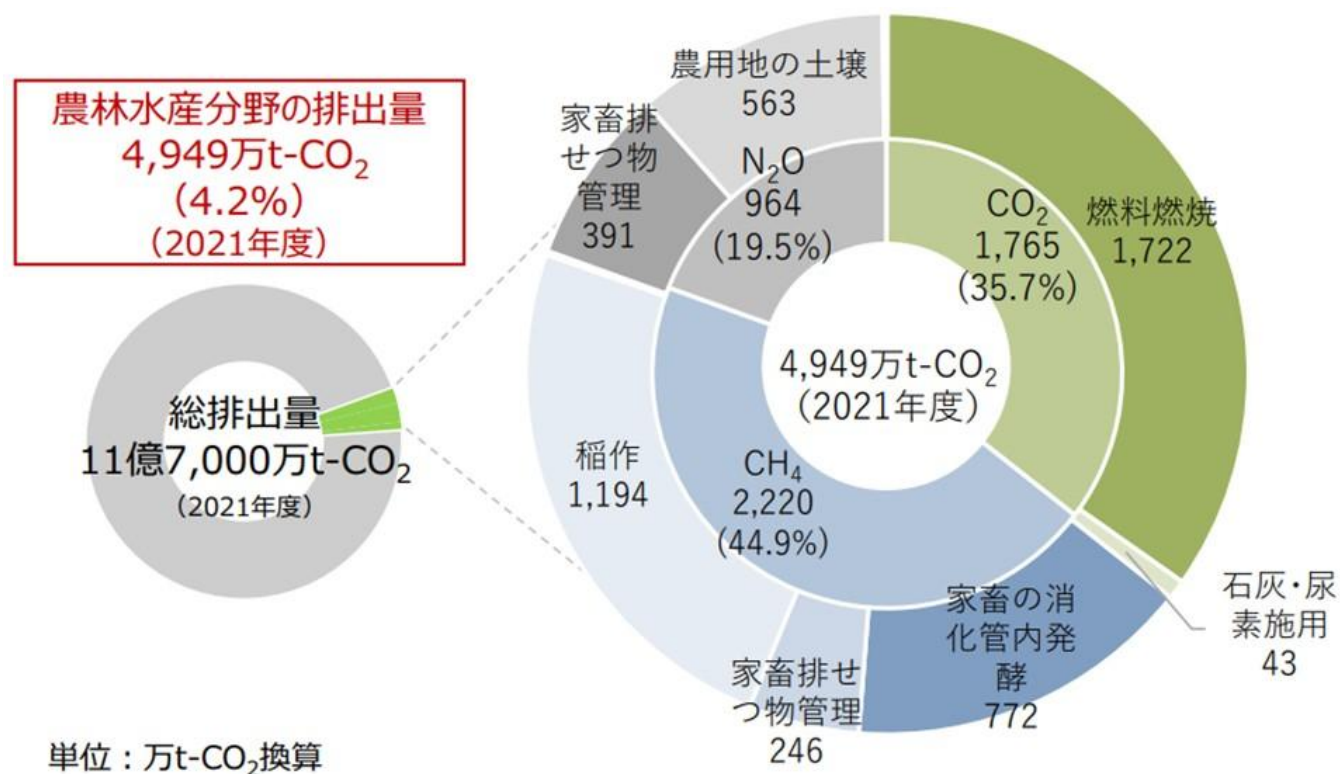
## 農産物中の農薬の残留基準超過における原因割合



※日本GAP協会調べ:2006年1月~2022年12月 出典:報道資料および公表された違反事例

# 農林水産分野の温室効果ガス(GHG)排出量

## 日本の農林水産分野の温室効果ガス(GHG)排出量



※温室効果は、CO<sub>2</sub>に比べメタンで25倍、N<sub>2</sub>Oでは298倍  
※排出量の合計値には、燃料燃焼及び農作物残渣の野焼きによるCH<sub>4</sub>・N<sub>2</sub>Oが含まれているが、僅少であることから表記していない。このため、内訳で示された排出量の合計とガス毎の排出量の合計値は必ずしも一致しない。

出典：国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス「日本の温室効果ガス排出量データ」を基に農林水産省作成

# JGAP2022における温室効果ガス削減対策

番号	レベル	管理点	適合基準
11.2	重要	省エネルギーの推進	<p>温室効果ガス削減対策のために、以下に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 電気、ガス、重油、ガソリン、軽油、灯油等のエネルギー使用量の把握</li> <li>(2) 施設、機械の省エネルギーのための計画を文書化および実施</li> <li>(3) 再生可能エネルギーの採用の検討</li> </ul>
12.1	必須	廃棄物の適正処理 および資源の有効利用	<p>廃棄物の適正処理、温室効果ガス削減対策のために、生産工程で発生する廃棄物について、農場から出る廃棄物を把握し、以下を文書化し実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 環境を汚染しない保管方法</li> <li>(2) 法令、行政の指導に則した処理方法</li> <li>(3) 削減のための努力</li> </ul>
C1.3	重要	炭素の貯留に配慮した 土づくり	<p>土づくり、有機物の地域内循環および温室効果ガス削減対策のために、以下に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 炭素貯留に配慮した土づくり計画の文書化</li> <li>(2) 地域内で発生する有機物、植物残渣の積極的な活用</li> </ul>

※穀物では「温室効果ガス(CH<sub>4</sub>)の発生抑制」として、水田におけるメタンガス発生を抑制するため、対策例として稲わらの水田還元、無代かき栽培、中干処理等を掲げる管理点も設定

# JGAP/ASIAGAPの持続可能性を世界基準とするアドオン規格「+SA」

## SAI Platformの評価システム「FSA」について



持続可能な農業を目指し2002年に設立された国際団体で、農協・製造業・小売業者などフードシステムに関わる幅広い業種から、170以上の組織が加盟



### 「FSA(Farm Sustainability Assessment)」は

SAI Platformが提供する持続可能な農業の実践を評価するシステム  
一般的なGAP認証の要求内容に加え、より詳細な水や土壌の管理、生産者が農地の権利を有していること、人権を重視した労務管理の確認などの点に特徴

- 「FSA」自身が農場に対する評価の仕組みを持つだけでなく、他規格とのベンチマークの仕組みを有しており、その際の適合度は、上からゴールド、シルバー、ブロンズの3段階で示される。

# JGAP/ASIAGAPの持続可能性を世界基準とするアドオン規格「+SA」

## 「FSA」対応の考え方

### 背景

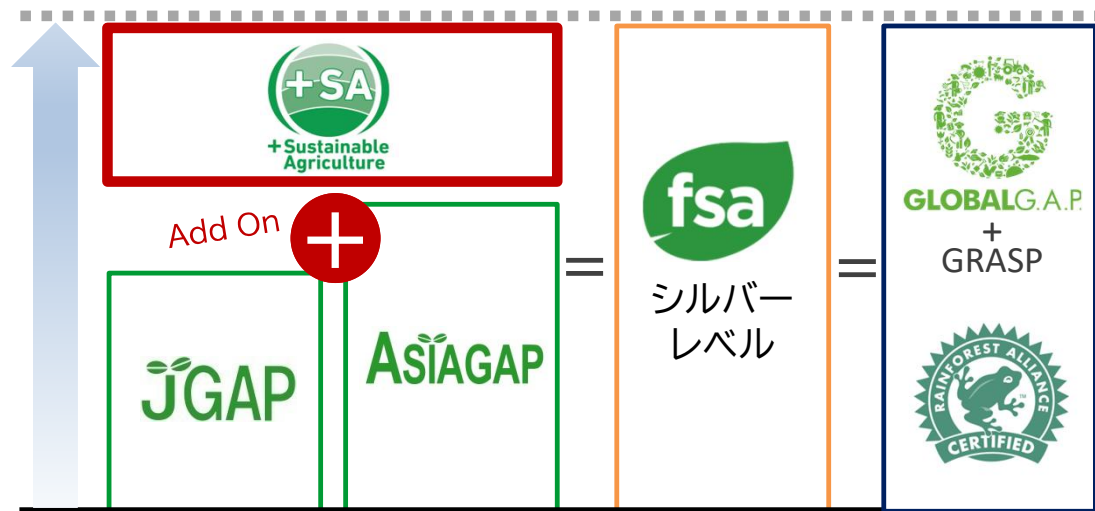
農業の持続可能性を主眼とする「FSA」への世界的な支持が広がっている中、JGAP/ASIAGAPにおいても世界の潮流に対応するため、ベンチマーキングに取り組むこととした。

## 「FSA」への対応に特化したAdd On(アドオン)規格「+SA」を開発

JGAP/ASIAGAPの両者に対応し、農場のニーズ等に合わせた選択が可能



### ■ベンチマーキング対応レベル



- 現行のJGAP/ASIAGAPによりベンチマーキングに対応するため、不足点については「FSA」への対応に特化した管理点を付加するアドオン規格とした。対応レベルは、レインフォレスト・アライアンス、GLOBALG.A.P.(アドオン規格であるGRASPとの同時取得)が実現しているものと同じシルバーレベル
- このアドオン規格はひとつでJGAP/ASIAGAPの両者に対応するので、どちらの認証取得農場でも対応可能
- 審査は、JGAP、ASIAGAP審査と同時に実施

# JGAP/ASIAGAPの持続可能性を世界基準とするアドオン規格「+SA」

## アドオン規格「+SA」の内容

- 項目数は、JGAPで10項目、ASIAGAPで14項目にとどまる。

ASIAGAPの項目数が多いのは、最新のJGAP2022が持続可能性に関する項目を強化したことによるもの  
「+SA」が対応するのは、JGAP、ASIAGAPともに青果物、穀物、茶。(FSAは畜産を含まないため)

## 管理点の主な内容

1. 土地の利用権があることの確認
2. 透明な商取引の実施
3. 農業経営に関する法令の遵守
4. 販売に関する契約の締結
5. 「FSA」が求める適正な農薬の使用
6. 労働者の適切な採用活動
7. 温室効果ガス低減への配慮
8. 周辺環境に配慮した肥料の取扱い など

## ロゴマーク

持続可能性を表す+SA規格として  
独自のロゴマークを適合証明書、  
宣伝資材、農産物の包装等に表示  
可能

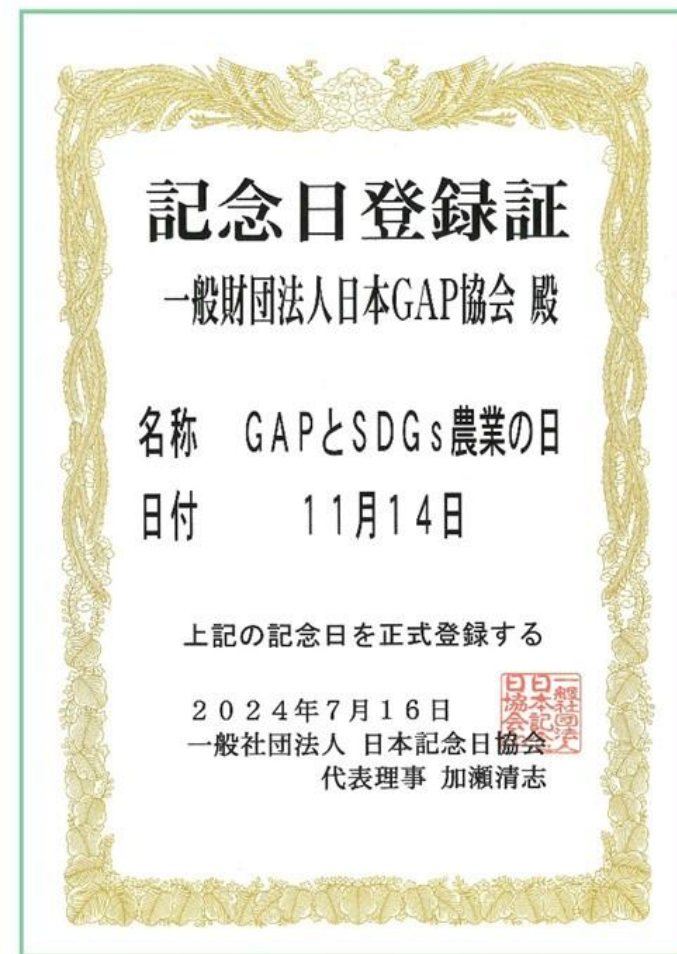


## 運用経過

- 公表および発行:7月1日
- 審査員、指導員、農場に向けたオンライン研修の実施
- 運用開始:11月1日

# 「GAPとSDGs農業の日」記念日登録

- GAPの認知度向上と普及を目的とした「GAPとSDGs農業の日」が、(一社)日本記念日協会により記念日登録
- 消費者、食品事業者、生産者にGAPの重要性と価値を知っていただくこと、記念日が小売イベント等のきっかけとなることを期待
- GAPが持続可能性をテーマとしているSDGsの達成に貢献するものであることを広く普及することを目指しているところ
- 多くのGAP関係者が共有できる財産として、11月をGAPとSDGs農業を普及・推進する月間として様々な取り組みを積極的に盛り上げていきたいと考えているところ



# イトーヨーカドー店頭イベント

- 2024年10、11月にイトーヨーカドー木場店、国領店にてJGAP認証を広く知っていただくための店頭イベントを開催
- (株)セブン&アイ・ホールディングスの「秋の環境月間」の一環として、また「GAPとSDGs農業の日」の告知も兼ねたもの
- 「JGAPマークを探そうチャレンジ！」と題し、来店客に店内でJGAPマークのついた商品を探していただき、見つけた方にJGAP認証農産物を進呈
- 4日間で合計800組が参加



# 「JALふるさと納税」GAP認証農産物特設ページ

- 「JALふるさと納税」において、サステナブルな農産物をテーマにした特設ページが新たに公開
- ふるさと納税を通じて、寄附者は地域を応援するだけでなく、持続可能な未来に貢献
- 特設ページでは、JGAPやASIAGAP認証を取得した農産物を掲載するだけでなく、GAP認証の概要やSDGsとのかかわりについて理解を深めることができ、寄附者はよりサステナブルな選択を行うことが可能



特設ページ:  
<https://furusato.jal.co.jp/lp/gap/>  
 特集ページ:  
<https://furusato.jal.co.jp/feature/detail/48d3811ee5294828018f5262e6e8ac68>

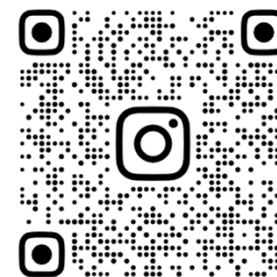


# インスタグラム キャンペーン

- インスタグラムにおいて、JGAP認証の認知拡大を目的にプレゼントキャンペーンを実施中



日本GAP協会  
インスタグラム



JGAP\_SUSTAINABLE

[https://www.instagram.com/jgap\\_sustainable/](https://www.instagram.com/jgap_sustainable/)

# 農林水産省「農業経営人材の育成に向けた官民協議会」への参画



- 農林水産省経営局が、関係機関等の連携を通じ、農業者の経営管理能力及び農業者を支援する者の支援能力の向上を促進することを目的に2024年6月に「農業経営人材の育成に向けた官民協議会」を設置
- GAPは「農業経営の教科書」と言っても過言ではない経営の発展にとっての総合的かつ基盤的な要素を持つことから、日本GAP協会もその構成員として、農業者が行う経営管理能力向上に向けた取組の支援等に向け取り組み



# JGAP/ASIAGAPの今後

**農場・食品事業者からの期待に応える認証制度の運営**

**普及・広報活動の展開**

食品事業者との連携、万博調達コードへの対応、ロゴマークの活用、消費者への広報など

**国際的な動きとの連動・アジアへの普及**

GFSIとの協働 – ASIAGAPの改定(2025年予定)

SAI Platformとの協働 – JGAP/ASIAGAP新アドオン基準 + SAの運用 –

**GAPの可能性の拡大**

審査のデジタル化、温室効果ガス削減など地球環境への貢献

私たちは信頼できる農場の目印“JGAP/ASIAGAP”を創っています。



一般財団法人 日本GAP協会

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3番29号 日本農業研究所ビル 4階  
TEL: 03-5215-1112 / E-mail: info@jgap.jp / <https://jgap.jp>

- 日本GAP協会メールマガジンを無料配信しています。  
日本GAP協会Webサイトからの登録、またはinfo@jgap.jpへメルマガ希望とメール下さい。
- 日本GAP協会では、GAPの普及のために共に活動して頂ける会員を募集しています。  
詳しくは日本GAP協会Webサイトをご覧ください。